

事務事業名		歴史研究所調査研究事業		会計		一般会計		実施区分		
H28担当課等名		歴史研究所		H28係等名		総務係		H27係等名		
H27係等名		総務係		H27係等名		総務係		開始 15 終了		
基本計画上の位置づけ		政策	6	地域の自然・歴史・文化を活かし続けるまちづくり						
		施策	61	地域資源の発見・資産化						
目的	対象(誰・何を)	・資史料(文書、画像史料、歴史的建造物・景観等) ・歴史研究に携わる人又は興味のある人			指標名及び単位		27年度数値			
	意図(どういう状態にするか)	・建造物等を含む資史料の調査研究、聞き取り調査等により地域の歴史文化を解明 ・多面的研究により、生きた歴史情報を蓄積			対象指標	資史料存在可能箇所数(世帯38,512+自治振興センター等15+市内小中校・郡内高校36+企業団体等10+個人蔵10)		38583		
	向上させたい上位施策の成果指標	見いだされた地域資源の数(累計)				おおむね75歳以上市民(聞き取り調査対象年齢)		17189		
目標	種別	指標名及び単位			27年度計画	27年度実績	28年度計画	28年度見込み	備考(指標変更など)	
	成果指標	研究所で発表した研究成果の数(単年度)			60	66	60	-		
	成果指標	研究活動助成数(単年度)			3	2	3	-		
定性目標										
事業概要	1 時間の経過とともに失われていく史料調査、建造物調査、聞き取り調査(オーラルヒストリー)の実施									
	2 資料の収集、保存、公開、活用									
	3 市内各地に豊かに積層する歴史や文化の達成物全てを「地域歴史遺産」、「地域文化遺産」として再発見し、関係機関との連携を図り、地域市民とともにそれらの調査・研究を将来に継承									
	4 研究員、調査研究員、顧問研究員、市民研究員等は研究計画書に基づきそれぞれの研究課題に取り組み、客員研究員には研究活動への積極的な協力を求め、その成果を、研究集会、定例研究会、年報等で公表									
	5 市域を対象にした研究活動を支援・助成することで研究成果の蓄積を図り、人材の育成に努め、広くその成果を地域に還元									
事業内容					名称			活動指標		
27年度事業内容	1 共同研究				1 調査回数	1 95回				
	2 基礎研究				2 研究件数	2 17件				
	3 研究集会9月5・6日 飯田下伊那地域に関する研究報告会				3 参加者数	3 127人				
	4 研究成果物等の出版『年報13』(研究報告、市民の研究投稿等)				4 出版数	4 1件				
	5 地域史研究の振興と支援・歴史研究活動の支援と助成				5 対象数	5 2件				
	6 定例研究会				6 定例研究会等回数	6 7回				
	7 歴史史料の調査研究と保存・利活用(文化遺産を活かした地域活性化事業)				7 保存・利活用の史料数	7 7,105点				
	8 地域歴史史料調査と地域史研究団体への支援				8 調査・支援回数	8 46回				
事業コスト		26年度決算額	27年度予算額	27年度決算額	28年度予算額	特定財源内訳、補足				
事業費計(千円)①		15,910	16,837	15,762	16,527	[27特定財源]				
国庫支出金		3,383	3,409	3,295	3,000	国:文化遺産を活かした地域活性化事業補助金3,295千円				
県支出金						その他:出版物売却代252千円、諸収入31千円				
起債										
その他		510	350	283	350	[28特定財源]				
一般財源		12,017	13,078	12,184	13,177	国:文化遺産を活かした地域活性化事業補助金3,000千円				
人件費計(千円)②		13,589		14,304		その他:出版物売却代340千円、諸収入10千円				
正規職員所要時間		3,800		4,000						
臨時職員所要時間										
総事業費①+②		29,499	16,837	30,066	16,527					
事業内容・目標達成状況の振り返り		・資史料の調査研究・保存・公開を行うとともに、その成果を各講座等で報告した。また、古文書入門講座ではテキストとして活用 ・平成27年度は、旧役場文書である下久堅地区(225箱・5,256点)・鼎地区文書(250箱)の目録を作成し保存								
改革改善の考え方	①問題点	市民等からの依頼・相談により調査・整理を必要とする資史料が年々増加しているが、整理に時間を要し、また経費等の問題から調査や整理が進まず、公開に至らない資史料が多い。								
	②改革提案	経費・人材を確保し、資史料の調査と整理を進める。地域にある資史料は、地域の人々と協働で調査等を行い、地元で保存する体制を推進する。調査の目的と研究の継続性を重視して、研究事業の枠組みを見直す。								